

利根川氾濫からの広域避難基本方針 概要

利根川氾濫時においても流域自治体からの“逃げ遅れゼロ”のために「自主避難場所の確保と自主的な広域避難の推進」

利根川氾濫時には広域避難が必要 “ここにはダメです”

広域避難⇒市町村界を越えたり、居住地域外、地区外等の浸水区域外への立退き避難

◆ 広範囲の深い浸水、長期間の浸水が想定され、浸水人口は約13万人

- 5市町の全浸水人口を広域避難・浸水域外避難の対象とした場合、その規模は約13万人（対象地域人口の52%）
- 渡良瀬川合流地域（板倉町、加須市北川辺地域）、利根川左岸沿川地域（古河市、境町、坂東市）では、貯留型、沿川流下型の浸水特性によって、長期間の浸水継続が想定されます。



◆ 広域避難には時間がかかる

- 台風19号では、一斉に避難により、避難者の集中・混雑により避難完了に時間を要しました。
- 一斉に避難した場合、避難シミュレーションの結果などから、避難情報の基準到達から避難完了までは12時間程度の時間が必要と推計されます。



自主的な早めの判断で広域避難を

◆ 広域避難の対象者と避難行動

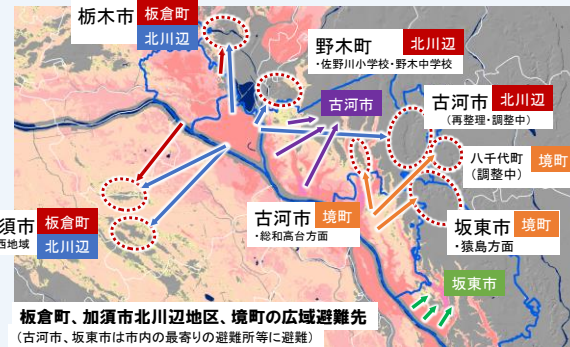
- 広域避難の対象者は、利根川洪水浸水想定区域内のすべての住民です。
- 情報を待つのではなく、自ら情報を収集、判断し、早めに広域避難しましょう。
- 不安を感じたり、避難するか迷ったら、ためらわずに、まずは避難を開始しましょう。

◆ 広域避難先

- 広域避難先は、住民各自が自主的に確保した親戚・知人宅、勤務先、宿泊施設等を第一とします。
- 市町は、自主避難先が確保できない住民等のために、近隣市町との協議や調整等により、公的な広域避難先を確保や、浸水のおそれが低い地域での車中避難等の多様な避難の選択肢の周知に努めます。

◆ 公的な広域避難先の位置づけ

- 公的な広域避難先は、一時的な滞在を目的としたものとし、避難する場合には、住民は食料、水や最低限の生活に必要なものを持参し避難してください。
- 一時的な滞在を目的としているため、被災状況等に応じて避難が中長期に及ぶ場合は、市町内の被災していない避難先や非被災市町の避難先等へ二次避難が必要となります。



逃げ遅れゼロを目指した住民・地域づくり

◆ 住民主体での広域避難先（自主避難先）確保の推進

- 広域避難時の混雑緩和、域外避難に対する抵抗感の低減のため、親戚・知人宅、企業、宿泊施設等を自主避難先として各自で確保しておくことを積極的に推奨します。

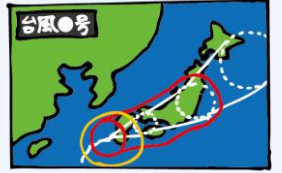
◆ 家族や地域でも避難が困難な住民（避難行動要支援者）に対する支援の推進

- 高齢者等の要配慮者のうち、家族や地域でも避難が困難な住民を把握し、その人に対する広域避難支援を、行政中心で最優先に取り組みます。
- 地域で支援可能な要配慮者の避難支援のため、地域での地区防災計画の検討を積極的に推進します。



自治体間での連携した広域避難体制

- 利根川上流域で、利根川が氾濫するような大雨の可能性が予想される場合、広域避難の必要な市町は、今後の対応について共同検討を開始します。
- 共同検討により、台風が近づく前、地域内で雨が降る前や雨風が強まる前等の、より早い段階から広域避難に関する情報を市町が共同で発表します。



◆ 広域避難を促す情報の段階的発表

（利根川上流で大雨の可能性が予想された場合）

- 利根川上流河川事務所が気象庁と連携し、市町に共同検討のための情報提供を実施します。
- その情報に基づき、市町防災担当者が共同検討を開始し情報共有や協議（気象情報等から進展イメージの共有、ゼロアワーの設定、広域避難を促す情報のタイミングの協議等）を実施します。
- 状況の進展に応じて、広域避難を促す情報を段階的に発表します。

発表する広域避難を促すための情報

情報の名称	時間イメージ	情報発表の目安 いずれかの条件が該当した場合	避難行動
共同検討開始	避難判断水位到達の約72時間～約24時間前	① 協議会メンバー発議（市町等で利根川の洪水警戒体制へ移行の可能性がある場合） ② 72時間先の利根川上流域の累加の流域平均雨量が概ね300mm見込まれると予想され、氾濫の可能性があると考えられる場合	・ 避難に時間を要する方は広域避難の準備の開始 ・ 自主的な広域避難開始
自主的な広域避難情報（広域避難の呼びかけ）	避難判断水位到達の約24時間～約6時間前	① 共同検討の結果から自主的な広域避難が必要と判断された場合 ② 24時間先の利根川上流の累加の流域平均雨量が概ね300mmを超えると予想され、氾濫の可能性が高まったと考えられる場合 ③ 市町の判断 ※	・ 避難に時間を要する方、友人、知人宅などは自主的な広域避難先への避難を開始
広域避難勧告	避難判断水位到達の約6時間前	① 共同検討の結果から広域避難が必要と判断された場合 ② 72時間の累加の流域平均雨量が概ね300mmを越える可能性が高く、6時間先迄に八斗島又は栗橋で避難判断水位を越える恐れがある場合 ③ 市町の判断 ※	・ 対象地域全住民が広域避難

※雨の状況によっては市町の実情に応じて広域避難勧告等を早める場合がある

広域避難ができないときは

- 広域避難が困難と判断した場合には、市町別に警戒レベル4避難指示（緊急）等の緊急的な避難のための情報を発表します。

◆ 警戒レベル4避難指示（緊急）が発令されたときの避難行動

- 警戒レベル4が発令された後には、要配慮者を除き、原則徒歩で避難しましょう。
- 地域内の緊急避難場所等、浸水後もとどまれる丈夫で高い建物や高いところに避難しましょう。